楠の葉

佐賀大学同窓会報 第11号

発行日 2009年7月1日
発行 佐賀大学同窓会
佐賀市本庄町1 佐賀大学内
TEL 0952-23-1253
FAX 0952-25-5700
E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp
ホームページ http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/
編集代表者 宮原 義幸

「21世紀に雄飛する佐賀大学へ」
ー同窓会友のサポートを期待ー

佐賀大学同窓会　理事長　**光岡　正登**

文化教育学部の宮尾正隆氏から輪番により引継ぎ、その大任に大いにとまどいと緊張を体感しております。

ともあれ付与された２年間、会長のアシストを滞りなく勤め、結果、我が同窓会ならびに母校の充実、発展に繋れば至上の悦びとすべく、どうぞ会友のみなさんの心からなる叱咤とご協力をお願い致します。

私は佐賀市の鄙、川上郷に生れ、小・中・高校は言わずもがな地元、学力、家計力から、大学は迷うことなく、自宅通学可の佐賀大学を選びました。私と佐賀大学との長い関りの起点がここにあります。

1959年に卒業。神武、岩戸景気を経て「もはや戦後ではない」と人心はまたぞろ、自信が慢心へ零れおちる兆しを憂えて、時の東大大川内学長が卒業生を「太った豚になるより、痩せたソクラテスになれ」と警鐘を籠めた祝辞で送り出すご時勢。我が佐賀大学の今中学長は「世はいまだ駅弁大学と蔑称するが、諸君は最高の学府で心身を研き究めた貴重な人財です。明日からは人倫に則って、大衆の先頭に立って善導するリーダーになって下さい」と訓辞されました。強烈なインプレッション。

爾来50年、いまだにこの学長送別の辞は脳裡を離れることなく、以後40年の企業人、それに続く現ボランティア活動を通じて、私のすべての思考、言動の中に活きて来ました。

私は地元企業に職を得たことで、母校佐大との関りがより深くなって行き、またこの事が当然のように同窓会活動にも繋り、今日に至っております。なかんづく企業の人事担当部署に在籍するようになってからは、母校卒業生の採用活動で、その関係は濃密になって行き、またその分同窓会活動も外野席からの応援ではすまされない立場に嵌って行くことになりました。

大学は、医大との統合、独立法人への脱皮等、大きなチェンジを経験し、これをクリヤーして行っております。しかし今だ21世紀に生き抜くための確たる大道は見究めきってはおりません。その分我ら同窓会としても、今まで以上に母校のサポーターとして、アドバイザーとしての勤めが求められるものと思量いたします。どうかみなさん、貴重なご意見、ご助言、ご希望を頂き、大学や同窓会に対するホットなご支援を賜りますようお願いいたします。

平成21年度春期定例役員会

事業計画と予算を決定

平成21年度春期定例役員会を４月15日㈬、同窓会館「菱の実会館」で開き、平成20年度事業報告・決算報告と平成21年度事業計画・予算案を承認しました。

意見として、会員にメリット感のある事業や、会員以外の人も対象にした事業展開などが出されました。

また、理事長として、楠葉同窓会副会長の光岡正登氏（30入・文理　経済）が、21、22年度の２年間担当することになりました。

Ⅰ．平成20年度事業報告

１．会報発行事業

『楠の葉』９、10号を発行しました。また、佐賀大学広報『かちがらす』12、13、14号を会員の皆さんに発送しました。

２．事業活動

１）支部総会等への参加

10支部で総会等が開催され、そのすべてに、久間会長はじめ各学部同窓会から出席しました。

２）佐賀大学との意見交換会

大学から長谷川学長はじめ10名、同窓会から久間会長はじめ11名が出席しました。

３）単位提供講座への支援

３年生を対象とした「キャリアデザイン（自己発見講座）」に、全国から同窓生10名が講師として活躍しました。

４）就職支援

就職内定者30名と意見交換し、今後の就職支援活動のための情報収集を行いました。

５）第16回佐賀県青春寮歌祭への参加

同窓生20名が参加のほか、佐賀大学混声合唱団も応援参加しました。

６）開学祭支援事業

医学部の開学祭および本庄キャンパス開学祭に、資金援助をおこないました。

７）懇話会〔クリエイティブ21〕

第26回～28回例会を開催しました。

８）佐賀大学同窓会横断幕・旗の作成

横断幕３枚、旗８枚を作成しました。各支部同窓会等に貸し出します。

９）佐賀大学校友会への寄付

１千万円を寄付しました。詳細は３ページの関連記事をご参照ください。

Ⅱ．平成21年度事業計画

平成20年度事業の継続のほか、新たに「佐賀大学校友会の支援」を追加しました。

Ⅲ．20年度決算および21年度予算（概要）

〔単位：千円〕

科　目	20予算	20決算	21予算
収入の部			
前年度繰越金	2,978	2,978	8,598
収納金	17,292	17,873	17,200
雑収入	5	11	10
合計	20,275	20,862	25,808
支出の部			
運営費	5,600	4,130	4,700
業務・活動費	11,530	7,972	13,030
予備費	3,145	162	8,078
繰越金		8,598	
合計	20,275	20,862	25,808

平成21年度　佐賀大学同窓会役員名簿

役　職	担　当	氏　名	卒業年学科	役　職	担　当	氏　名	卒業年学科	役　職	担　当	氏　名	卒業年学科
会　長		久間　善郎	文理・37法	理　事	広　報	池上　康之	理工・61生機	理　事	庶　務	土肥佐和子	医学・Ｈ９看
副会長		宮島　豊秀	教育・35小	〃	広　報	磯野　健一	理工・62工化	〃	庶　務	穂屋下　茂	理工・49機
		梅崎　正道	文理・37経	〃	広　報	有馬　進	農学・52農	〃	庶　務	白武　義治	農学・51農
〃		江村　正	医学・62医	〃	広　報	吉賀　豊司	農学・Ｈ２園	〃	情　報	今野　厚子	教育・51中
〃		田中　正和	理工・48化	〃	資　料	江口　信義	教育・36中	〃	情　報	加藤　明	医学・63医
〃		松尾　正紀	農学・43農	〃	資　料	百武　英明	文理・41経	〃	情　報	渡邉　健次	理工・62物
理事長		光岡　正登	文理・34経	〃	資　料	古島　知恵	医学・H11看	〃	情　報	寺山　康教	理工・Ｈ１機
副理事長		宮尾　正隆	教育・36美	〃	資　料	深井　澄夫	理工・53電子	〃	情　報	田中　宗浩	農学・Ｈ４生
〃		佐藤　武	医学・59医	〃	資　料	溝口　善紀	農学・53農	〃	懇話会	小池　政雄	文理・34英
〃		椿　忠彦	理工・53物	〃	会　計	成冨　宏	教育・38美	〃	事務局長	副島昭十朗	文理・33法
〃		光富　勝	農学・51農	〃	会　計	石丸　新	文理・44法	監　事		青柳　博臣	教育・31中
理　事	広　報	永吉　一子	教育・33小	〃	会　計	野出　孝一	医学・63医	〃		青山　祐二	文理・42経
〃	広　報	前村　晃	教育・45美	〃	会　計	中島　道夫	理工・47化	〃		石川　倫子	医学・H10看
〃	広　報	宮原　義幸	文理・42法	〃	会　計	山口　郁雄	農学・52農	〃		太田　里美	理工・48数
〃	広　報	江口　邦子	経済・52経	〃	庶　務	三原　信一	教育・42中	〃		北川　行俊	農学・37農
〃	広　報	枝國源一郎	医学・Ｈ３医	〃	庶　務	長　安六	文理・44経	顧　問		関本　優	文理・31経

佐賀大学校友会を支援

佐賀大学校友会が平成20年度に設立され、同窓会はその構成員として活動を支援することになりました。同会の役員として、同窓会から副会長１名、理事１名、監事１名、幹事５名が就任しました。

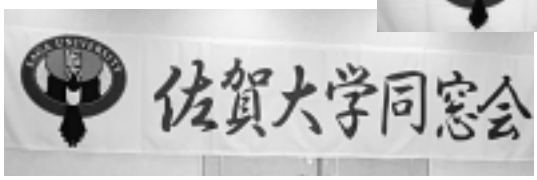
校友会の目的は、「佐賀大学の使命達成を支援するとともに、在学生、卒業生などすべての関係者と大学との連携のもと、国際的、地域的に貢献する佐賀大学コミュニティの形成を図ることです。また、そのための財政基盤を強化することです。」となっています。

同窓会は、校友会の正会員となりその結果として、同窓会会員は校友会の会員となり、校友会活動を支援していくことになります。

会費は、正会員である佐賀大学同窓会が、毎年度、一定額を校友会に納入します。なお、20年度は、佐賀大学同窓会特別会計から１千万円を寄付することを10月の役員会（最高決議機関）で決定し、交付しました。

同窓会横断幕、旗を作成しました。

支部で活用を



佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会

恒例となった佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会が、４月24日、ホテルニューオータニ佐賀で開催された。

大学側からは長谷川学長はじめ理事、監事及び学部長ら11名、同窓会側からは久間会長はじめ副会長、理事長及び理事ら12名が出席した。

はじめに、久間会長が平成20年度の同窓会の活動状況について報告し、「昨年12月に、佐賀大学同窓会が佐賀大学校友会の正会員となったことを受けて、1,000万円を寄付した。校友会の目的は、同窓会の目的である『佐賀大学の発展に寄与する』に合致するものであり、今後協力していきたい。また、同窓会が大学と連携して開講しているキャリアデザイン講座も学生に好評だと聞き喜んでいる。学生の就職対策など、引き続き協力していきたい。」と挨拶した。

続いて、長谷川学長から、校友会、キャリアデザイン講座への協力についてお礼が述べられた。また、大学の現状について、第一期中期目標期間の評価結果が示されたこと、第二期の中期目標・中期計画を作成していることなどの説明があった。

出席者の紹介のあと、自由な意見交換が行われた。

各学部長から、学部の取組等について報告があり、理工学部長及び農学部長からは、大学院（工学系研究科、農学研究科）の改組計画が進んでいるとの報告があった。また、農学部では、農学部同窓会と連携して研究成果発表会を開催しており、今年は６月13日に開催する予定であるとの報告があった。

各理事からは、芸術、スポーツの場での学生の活躍、佐賀県における産学官包括連携協定の締結（平成20年10月）等について報告があった。

同窓会からは、

・校友会の活動計画を早く示していただきたい。
・経済学部が公開講座として実施する簿記講座受講者の簿記検定合格率をあげていただきたい。
・理工学部の学生の留年率が高いようだ。４年間で卒業できるような方策を考えていただきたい。
・プレス発表の方法について検討をお願いしたい。
・就職した学生の追跡調査はできているのか、特に、卒業後、３年以内に転職した学生の動向はつかめているのか。

などの質問が出された。

意見交換会の様子

校友会の活動計画について、学長から、各学部の後援会総会の時期にあわせて、保護者の方々に大学の活動や施設等を知っていただく行事を実施したいと考えているので、協力をお願いしたいとの発言があった。

最後に、今後もこういう情報交換の機会を続けていきたいとの光岡副理事長（現理事長）の挨拶があり、２時間にわたる意見交換会を終了した。

同窓会NOW　有　朋　会(教育・文化教育)

旧筑紫野寮生「想い出コンパ」

佐大紛争世代、55名が集う

旧筑紫野寮の同窓会が、５月15日夜、佐賀市のグランデはがくれで開催されました。

この同窓会は、1960年代後半、佐大紛争に関わった、63～67年度入学生の催しでしたが、55名の多数が集い、大半が約40年ぶりの再会をしました。話題は、懐かしい寮生活、厳しかった大学紛争の体験などで盛り上がりました。

佐大紛争は電気・水道料金に端を発し、67年、学生５人が停学や訓告を受けたことで火の手が上がり、学生は門にバリケードを築いて大学を封鎖し、大講堂撤去に反対して籠城で抗戦し、116日間に及ぶストライキを続行しました。68年春には、学生側は入学試験実力阻止を唱え、佐大にはヘルメット、ゲバ棒で武装した他大学の応援部隊が終結し、色とりどりの旗を翻し、ジグザグデモを繰り返し、さながら戦争前夜を思わせる状況となりました。佐大紛争では、22人が退学、19人が停学処分を受けましたが、総数1900名の小規模大学にしては異常な数です。佐大紛争は、東大や他の国立大学紛争に先んじたものでした。

同窓会の様子は佐賀新聞でも大きく取り上げられましたが、世話人の島内靖夫さんはベトナム反戦や文化大革命などに触発され、夜通し議論したことを語り、原素子さんは、みんな連帯感や問題意識を持っていたことを語っています。また、無期停学の処分を受け、志望していた教師の道とは異なる人生を歩んだ男性は「学生時代の体験は生きる糧。後悔などない」と語っていますが、これは軽い言葉ではなく、おそらく、損得を抜きに紛争から「逃げなかった」自分に対して後悔はしていないということでしょう。

処分された学生の中には、後に弁護士、国会議員、大学の学部長になった人々もありますが、紛争の後遺症に苦しみ、思うに任せぬ人生を歩んだ人も少なくないようです。

当時の学生運動に、行き過ぎた面があったことは否定しようもありませんが、紛争に参加した学生たちは、だれもが佐大を愛し、社会の形成者としての誇りを持っていたことも事実です。

同窓会の後半では、巻頭言を叫び、寮歌をうたい、踊り、最後に「楠の葉」を高らかに合唱し、３年後に再会することを誓って散会しました。

（文責・昭41・前村晃）

同窓会NOW　楠葉同窓会(文理・経済)

平成21年度総会・懇親会

将来像で研究会を立ち上げ

平成21年度楠葉同窓会総会・懇親会を５月９日㈯、佐賀市の「グランデはがくれ」で開き、平成20年度事業報告・決算報告と平成21年度事業計画・予算案を承認しました。新年度事業計画での新たな企画として、楠葉同窓会の将来像について研究会を立ち上げます。

役員改選では、会長に梅崎正道氏（33入・文理　経済）を再選しました。副会長には光岡正登氏（30入・文理　経済）、小池政雄氏(30入・文理　英文）が留任のほか、新たに百武英明氏（37入・文理　経済）が指名されました。

１．平成20年度事業報告

⑴　会報発行事業
　88、89号を発行しました。

⑵　組織強化事業
　８支部で総会開催。楠葉同窓会本部から全ての支部総会に出席しました。

⑶　就職援助活動
　大学主催の企業研究会への講師派遣、在学生に対し同窓会名簿の配布や企業別・同窓生に関する情報提供を行いました。

⑷　『同窓会員名簿』発行事業
　2008年版『同窓会員名簿』の頒布。

⑸　会費納入会員の拡大

⑹　佐賀大学に関する他の同窓会、大学との連携促進

２．平成21年度事業計画

平成20年度事業の継続を基本としますが、新たに楠葉同窓会の将来像について研究するために、「計画委員会（仮称)」を立ち上げます。

懇親会に102人が参加

今年度は同窓生の大津数也さん（45入　経済　経済)のクラリネット演奏をはじめ、恒例のビンゴゲームなどで楽しみながら、会員相互の交流を深めました。

来賓として大学から副学長　田代洋丞氏、経済学部学部長　富田義典氏など、また、他学部同窓会会長の皆さんにご臨席いただきました。同窓生は93名の参加でした。

懇親会の実行委員会（委員長　江口達也氏）は、昭和56年入学を中心に13名の皆さんにご苦労いただきました。ありがとうございました。

（徳永進　45入・経済）

大津さん、プロ級の演奏に大喝采

恒例の踊りで、会場は最高潮に

同窓会NOW　佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会

真説医療問題

隅　　健次（医学部10期生）

３年間、自分は民間移譲で揺れた某公立病院に勤務していました。安泰と考えられていた公立病院が音をたてて崩れていくのを目のあたりにし、じかに医療崩壊を感じる機会に恵まれました。自分の経験はわずかであり偏ったものかもしれませんが、医療崩壊について現場の声をお伝えすることが医療問題の理解の一助となれば幸いです。

１．公立病院問題の本当のところ

公立病院が傾いた最大の原因は、経営不振です。「人件費が高すぎる」ことが特に問題とされています。民間病院に比べて人件費が高いのは紛れもない事実ですがその他にもさまざまな原因が存在します。

経営母体が行政であることも問題です。経営母体である行政が医療について無知なため、適切な運営ができません。例えば、事務長は役所から出向しますが医療については素人である場合が多いのです。議会で審議しなければ病院の重要事項も決められないため迅速な意思決定も困難です。

図１．主たる診療科別の医師数の変化

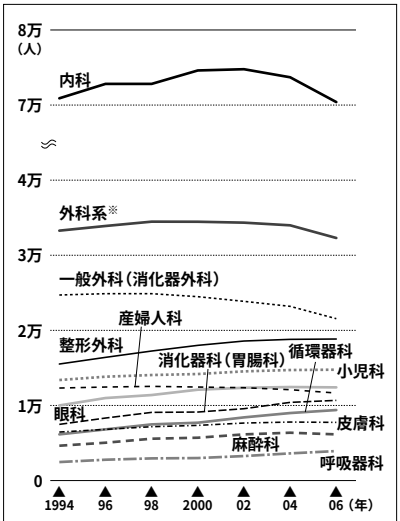


表２と図３の※：外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科の合計
※日経メディカル2009年４月号より改編引用

公立病院は生まれついての赤字体質です。公共事業である公立病院の建築費用は割高です。民間では20億で病院が立つところが50億かかることもザラです。割高な建築費用は借金として病院経営を圧迫します。病院に納入される物品も割高です。例えば重油やガスの値段は民間企業の２倍の値段で御購入などです。原則的に地元業者が優先です。他所のより安価な業者を使えば、議員の先生から恫喝めいたお電話が入ることもあります。

病院職員・住民の甘えもあります。医師も含めた病院職員に「親方日の丸」的な危機感のなさ、甘えがあったことは否めません。民間より高給でかつサボっていたのでは病院は傾きます。「俺らの税金でお前らは喰っとるんだから何時でもすぐ診ろ」と、コンビニエンスストアを利用するより気軽に夜中に受診される方もいます。軽症者にもかかわらず救急車をタクシーがわりに利用する方もいます。とある統計では救急車利用者の半分は軽症者だそうです。

みんなで寄ってたかって病院を崩壊させたのです。

２．医師不足

2004年に新臨床研修制度が始まり、研修医は卒後２年間、各診療科を廻り各科の状況を十分把握して入局（自分の属する科の選択）するため、仕事のキツイ科、人の死ぬ癌診療のある科、訴訟リスクの高い科が敬遠されがちです。また都会志向もみられます。

消化器外科は自己の診療技術によるところが大きくやりがいがあり、難病に立ち向かうことが達成感ともなりますが、診療科別の比較では、消化器外科の減少が著明（特に29歳以下の若い外科医は10年前の約１／３）です（図１．表１．）。

近年は民間病院を研修先に選ぶ人も多く、大学病院の医師数が減少した結果、大学病院からの地域の国公立病院や離島などへの医師の派遣が困難となり、それらの施設からの医師の引き上げにもつながっています。

「医師不足」は、各科間、地域の公立病院や離島などへの派遣業務を担ってきた大学病院と民間病院の間、地方と都会の間での医師の不適当な分布が引き起こした現象といえます。

３．医療問題への提言

医療問題の大部分は、実は、それぞれの登場人物が、自分の利益を中心に考え行動した結果生じた問題とも言えます。

今最優先すべきは、**「足るを知る」**ことと思います。『吾唯知足』という釈迦の言葉が元ですが、「欲望のままに要求し続けるのではなく、現状に満足することで心の平安が得られるというもの」です。自分の利益や欲するものを求めても、求めても決して満足感は得られないのではないでしょうか。

医療の場では、医師は、不景気にもかかわらず他業種と比べて経済的にも恵まれていることを自覚するべきです。患者さん側も現状でも世界的には十分恵まれた医療環境であること満足することが大切です。

「お陰さまで」の精神も大切でしょう。「自分が気づいていないところでもお世話になっているかもしれないと考え、何事にも感謝する心境」でしょうか。

「足るを知り」、お互いを非難し要求し合うのではなく、互いに感謝し思いやることで信頼関係が醸成され「いい医療」が実現するでしょう。医師にとっては感謝（評価）されることが喜びとなり、やりがいとなり、医療問題の解決につながると信じます。

表１．主たる診療科別の医療施設従事医師数（29歳以下）　（単位：人）

	1996年	1998年	2000年	2002年	2004年	2006年
29歳以下の総医師数	27300	26874	25693	26206	25960	25996
一般外科(消化器外科)	3229	2939	2692	2486	2184	1164
整形外科	1981	1935	1849	1787	1350	871
形成外科	222	253	301	345	303	245
脳神経外科	854	790	706	741	540	313
呼吸器外科	75	82	106	104	104	66
心臓血管外科	256	290	291	303	282	179
小児外科	93	66	74	92	84	40
産婦人科	1057	1067	971	1100	808	521

※日経メディカル2009年４月号より改編引用

同窓会NOW　菱　実　会（理工学部同窓会）

卒業生へのメッセージ ❾

―― 機械システム工学科の近況報告（その後）――

機械システム工学科
学科長　服部　信祐

機械システム工学科（機械工学科、生産機械工学科）卒業生の皆様いかがお過ごしでしょうか？前回、2005年に学科からのメッセージを送らせて頂いてから、早４年の歳月が経ちました。その間、教員の入れ替わりもあり、瀬戸先生、西田先生、中野先生、金子先生が定年退職され、渡辺先生は他大学に転出、また穂屋下先生は本学高等教育開発センターの方へ移られました。替わって将来有望な若手の先生が着任され、これからのご活躍が楽しみです。

また、建物に関しても、学科の教員室や研究室が入った理工学部１号館南棟、中棟および２号館の改修工事が終わり、新築か？と思わせるような立派な建物に変わりました。最近大学から足が遠ざかっておられる卒業生の皆様には、九州へお越しの際には是非とも佐賀の地まで足を伸ばして頂き、大学へお立ち寄り頂ければと思います。

さて、昨年はサブプライムローン問題に端を発して「100年に一度の危機」といわれる激しい波が押し寄せてきました。そして、いまなお世界中の社会経済に大きな陰を落としています。もしも、本当に100年に一度の危機であるならば、いまこの世の中にいるほとんどの人が初めての経験をしていることになり、前代未聞の対策を講じなければ、現状を打破するのは難しいでしょう。しかしながら、楽観視しているわけではありませんが、とても大変な状況ではあることは認識しながらも、日本経済に関しては多くの企業の頑張りによって遠からず復活するだろうと期待させる光を感じています。そして、

その日本の経済を支えていく大きな柱のひとつは、やはり「ものづくり」であると私自身は強く思っています。そこで、機械システム工学科に課せられる学生教育の責任は重大だといえましょう。ここ数十年来続いている大学生の学力低下を嘆く議論について、若者の教養が失われていることは別の問題として、本来、人間の基本的な能力が、そんなにコロコロと変わるはずはありません。つまり、学力低下の問題は、まず若者たちの生きる姿勢、学ぶ姿勢、さらに社会とのつながりの変化、くわえて「ゆとり教育」あるいは「少子化問題」など、以前に比べて学校教育の場において競争力が低下している、といった教育環境の変化にあると考えます。しかし、これらを一朝一夕に改善することは難しく、少し時間をかけて解決していくことになるでしょう。そこで、いま我々教員ができることは、学生が望む教育をできるだけ提供するということは当然のことであるとして、変化の激しい社会へ送り出すに耐えうる教育を行なうことだと考えます。前回お知らせしたとおり、機械システム工学科では2005年11月に日本技術者教育認定機構（JABEE）から審査を受け、日本技術者教育認定基準（認定分野：機械および機械関連分野）に適合していることが認められました。これに伴い、社会的ニーズに即した質の高い教育を実施していることが第三者機関によって保証されたといえます。これから先も、少しでも優秀な卒業生を社会へ送り出していきたいと思っていますので、卒業生の皆様方には、今後とも大学の教育・研究について忌憚なきご意見のほどをお寄せ頂ければと思っている次第です。

最後になりましたが、卒業生の皆様におかれましては、益々のご活躍とご発展をお祈りいたしております。

理工学部同窓会総会開催のお知らせ

来る平成21年８月29日（土）に理工学部同窓会総会を開催いたします。

日時：平成21年８月29日（土）15：00～

場所：佐賀大学「菱の実会館」

http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/rikou/info.html

出席の際は、氏名、学科名、卒業年度を同窓会事務局までお知らせください。

同窓会NOW 農学部同窓会

サブ・サハラでの一断想

～タンザニアとザイールの後日譚～

農学部前教授 武田 淳

これまで赤道を挟んだ熱帯アフリカで植生があい異なるインター・トライバルな現地調査をする機会を得てきた。紙面の都合上、西アフリカのトーゴを除き、タンザニアとザイール（現コンゴ民主共和国）での心に残った追想です。

東大の大学院生だった1972年、京大の伊谷純一郎先生から東アフリカ・タンザニアの現地調査にメンバーとして参加しないかとの声がかかった。早速McGraw-Hill から出版されている Teach Yourself Swahili というテキストを買い求め、独学だが朝晩に自習し、後は現地で鍛え上げるつもりでアフリカの大地を踏んだ。そして日中はツエツエバエが跋扈し、夜な夜なハイエナやライオンの遠吠えを聞くという落葉性乾燥疎開林（ウッドランド・サバンナ）での生活が始まった。１人で調査を切り盛りしなくてはならないために２、３カ月はスワヒリ語の習得に集中した。ある日ポーター３人を連れたサファリの途中、ゾウの群れに遭遇し、ライフルも荷物も放り投げて一目散に逃げたことがあった。ゾウ、カバ、アンティロープやシマウマ撃ちに出かける野生味に富んだトングウェ族の方々と暮らした10カ月も、後ろ髪を引かれる思いで日本への帰国の途につくことになる。帰路、ウジジ、キゴマ、ダレサラームそしてナイロビと日本に近づくにつれ、逆カルチャー・ショックすら覚えていった。

滞在中はタンガニーカ湖畔にも何度となくキャンプを張ったこともあり、マラリアの薬を処方通りに服用し予防に心がけていたが、帰国後３週間近く服用するのをすっかり忘れていた。ところが、翌73年５月初旬に友人たちと大学の近くの飲み屋で宴を張っている最中に極度の悪寒が始まった。すぐ近くに座っていた西田利貞先生（京大名誉教授：コモン・チンパンジー研究者）に、「武田君、マラリアだよ」と、いとも簡単に診断を下された。翌朝、白金にある東大医科研に行き、マラリアの権威・海老沢功先生に診てもらったところ即、入院と言われ、着のみ着のままの入院となった。同室の２人の方は東南アジアに出張中に罹患し、バイオプシーでマラリア原虫が巣くう肝臓の切片を既に採取されていた。その様子を見て、いかに痛いオペであるかを察した。診断の結果、超珍しい卵形マラリアと判明し、とても喜んでくれたのは海老沢先生だった。お弟子さんたちは肝臓の切片の入手を望んだが、血液の採取は応じても、バイオプシーだけはがんとして拒否した。主治医の海老沢先生がイギリスで買い求めた、当時日本では入手困難な薬で処方してくれた甲斐もあって、10日ほどで退院できた。爾来35年以上もマラリアの症状が出ていないことはマラリア原虫が我が体内で死滅したことになる。後日、日本での第５例目として症例報告されたと耳にした。

1974年琉大に職を得てから、74～75年と77年の２回、赤道直下の熱帯降雨林に包まれたコンゴ盆地で進めた調査も忘れられない。50種の昆虫を食するンガンドウ族とは、スワヒリ語よりずっとシンプルな（less integrated）リンガラ語を介して思う存分に意思疎通ができ、ここでも心美しい人々と生活を共にすることができた。現在、政治的混乱のために現地での調査はまず無理とは聞いているが、もしもう一度、アフリカでの調査の機会があれば、ザイールの地をまた踏みたいものである。

森の奥には宿がないのが普通で、よくミッションのゲスト・ハウスに泊めてもらった。ある時、バンダカというコンゴ川に面した街にあるカトリック・ミッションにベルギー人のフルスタット神父を訪ねたことがある。彼はローマ法王などに謁見する機会も縁もなく、ひたすら森の中の教会で、しかも30年以上の長きにわたって、布教に専念するかたわら、モンゴ語と彼らの諺をフランス語と現地語の両方で引ける、枕にできるほど分厚い大著を著す学者でもあった。購入したその２冊の本には、神父のサインをいただいた。

それに引きかえ、人類学者は精々半年とか10カ月か長くても２年もすれば、母国に帰れるという安堵感？があるためか、幾度となく外国の辺鄙な地にも足を踏み入れても耐えていける。日本には「石の上にも三年」という諺がある。冷たい石も三年も座り続ければ、暖かくなるというのが語源のようで、どんなに苦しくても我慢すれば、必ず報われるという意味を含んでいる。フルスタット神父も、奴隷解放に尽くし、マラリアの合併症のためにザンビアの奥地で命を落とした19世紀の大探検家リビングストンも、長期間アフリカの大地に心身を捧げている。当時車も冷凍技術もない熱帯でアフリカ人２人の従者（チュマとスシ）によって彼の亡骸と遺品は、1,600キロも離れた奴隷貿易で栄えた海辺の町、タンザニアのバガモヨの地まで運ばれた後にイギリスに船で移送された。彼らの忠実さと献身ぶりは、美談の域にとどまらない。金銭にも代えがたい世俗を超越した、実に素晴らしい人間関係の構築があってこそ存在する（した）のだろう。宗教の力（信心深さ）が基底に育まれた世界には、我々凡人が創造できない常軌の域をはるかに超越するものがあるものである。

同窓生の職場 ⑪ 美川眼科医院

1992年に佐賀医大を卒業後、同大学眼科学教室に16年間在籍しました。昨年４月からは更なるステップアップを求めて、佐賀市の美川眼科医院に勤務しています。

美川眼科の開院は1941年です。現在は美川達治院長、同期生の美川優子先生、後輩で16期生の樋田太郎先生と４人体制で診療を行っています。今年の３月には新築移転して、約40人のスタッフと共に新たなスタートを切りました。

新医院の設立では、４人の医師を中心にコンセプトやアイデアを出し合い、設計・建築を進めました。診療では新たに電子カルテを導入しました。当院の電子カルテの特徴は、眼科に特化しており、独自のカスタマイズができる所です。現在も正確で迅速な診療を目指して、日々進化しています。電子カルテを含め新医院の設立は大変でしたが、自分たちの考えで作り上げた環境で診療を行うことは、大きな楽しみがあります。医師の喜びとは、基本的には患者さんが怪我や病気を克服して元気になることだと思います。しかし、今回の新医院設立では、診療以外にも設備や接遇を含めたホスピタリティーに患者さんが納得し、満足してもらえる場面もあって、また新たな喜びとなりました。

様々な年代のスタッフが個々の経験や知識を基に意見を出し合い、医院の方針を決めていくことは、紆余曲折もありますが自分たちの手で理想の医院を作り続けることができます。それはやりがいがあり、非常に楽しいものです。

西村　知久（９期生）

支部だより

鹿児島県支部総会・懇親会

平成21年２月14日、鹿児島市内のホテル「レクストン鹿児島」において、鹿児島県支部の総会及び懇親会が開催された。

本部から久間佐賀大学同窓会会長をはじめ、４名の方々のご参加をいただき、県内各地から駆けつけた支部会員15名（うち女性２名）の出席のもと、初めての参加者もあり、再会を喜び語らい、楽しい集いとなりました。

恒例により、久間会長から本部を代表して、佐賀大学や大学同窓会の近況報告をうかがい、出席者一同法人５年目の母校の活動、母校を取り巻く教育環境の発展の姿に想いを馳せるとともに、ひとまず安堵いたしました。

懇親会の席では、出席者それぞれが学生時代の思い出や、人生の喜怒哀楽を含めた自己紹介と近況の報告を行い、酒盃を交わしながら歓談し、少人数を忘れるかのような賑やかな、有意義な懇談会となりそのまま同会場にて、二次会へと発展、会員によるハーモニカの独奏などで大いに楽しむことができました。

支部長　上　田　耕　平（文理・39卒）

恩・師・情・報・・・・この一年

平成20年７月～21年６月までの動向を掲載します（敬称略）

定年退職（平成21年）

川　田　修　三　文化教育学部教授
青　井　泰　道　文化教育学部准教授
濱　内　繁　義　経済学部教授
楊　枝　嗣　朗　経済学部教授
福　島　　宏　経済学部教授
頴　原　嗣　尚　医学部医学科生体構造機能学講座教授
齊　場　三十四　医学部附属地域医療科学教育研究センター教授
田　端　正　明　理工学部教授
井　上　勝　利　理工学部教授
永　野　正　光　理工学部教授
荒　牧　軍　治　理工学部教授
岩　尾　雄四郎　理工学部教授
信　太　克　規　理工学部教授
中　村　政　俊　理工学部教授
江　守　周　二　理工学部准教授
近　藤　榮　造　農学部教授
甲　本　達　也　農学部教授
内　田　　進　農学部教授
松　尾　隆　明　農学部教授
武　田　　淳　農学部教授

訃報　謹んでご冥福をお祈りします。

元佐賀医科大学名誉教授　松　浦　啓　一　氏
平成20年６月29日
元理工学部名誉教授　桑　野　則　行　氏
平成20年９月14日
元教育学部名誉教授　野　田　道　宏　氏
平成20年10月13日
元佐賀医科大学名誉教授　武　市　昌　士　氏
平成20年12月26日
元農学部名誉教授　岩　田　信　義　氏
平成20年１月24日
元経済学部名誉教授　花　田　仁　伍　氏
平成21年５月３日
元農学部名誉教授　田　中　典　幸　氏
平成21年５月７日

第17回佐賀県青春寮歌祭のご案内

・日時　平成21年11月28日㈯
　　13：00～17：00
・場所　佐賀市交流センター「エスプラッツホール」３階

会員の参加をお待ちしております。
参加希望の方は、佐賀大学同窓会事務局までご連絡下さい。

大学及び同窓会の動き

H21.１.１　佐大同窓会会報「楠の葉」Ｎｏ.10発行
14　単位提供講座キャリアデザイン／講師　脇屋裕一郎氏（農学部）
21　単位提供講座キャリアデザイン／総括　反省会
２.４　佐賀大学各学部後援会との打合せ会／佐賀大学「菱の実会館」
９　佐大同窓会代表役員会
14　鹿児島支部総会・懇親会／ホテル　レクストン鹿児島
３.６　佐賀大学校友会へ同窓会から寄附金贈呈
24　佐賀大学平成20年度学位記授与式
４.７　佐賀大学平成21年度入学式
８　佐大同窓会「代表役員会」
15　佐大同窓会「春期定例役員会」
24　「佐賀大学と佐大同窓会との意見交換会」／ニューオータニ佐賀
５.12　佐大同窓会会報「楠の葉」Ｎｏ.11編集会議
13　佐大同窓会「代表役員会」
６.10　佐大同窓会「代表役員会」
30　第29回「クリエイティブ21」／佐賀大学文化教育学部長　上野景三氏